

大野城市共働事業提案制度 事業評価及び意見集約表

事業名：小学校における生物多様性の保全に関する環境教育事業

実行委員会名：しぜん・いきもの環境教育事業実行委員会

評価項目		評価点	評価	推進委員意見
共働の必要性	市民への効果	19.8点 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> 多くの学校で実施できている点等学びの場の提供として良い事業になっていると感じる。学校側が継続的に必要性を感じられるような内容の検討を継続していただきたい。 市民へのPR方法として、多くの関係者、支援企業との取組、各地縁組織、各学校などへの段階的拡充が今後必要と思われる。
	共働の相乗効果	19.2点 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校との連携やニュースレター配布など、一定の相乗効果が上がっていると見られる。事業の経験値が上がることで、より質の高い学習機会の提供にもつながっている。 各学校における環境教育メニューとの関係性について、関係団体とのさらなる協議・情報共有が急務である。
	共働事業の実施過程	19.6点 / 25点	B	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの強みを活かした役割分担となっているが、団体の活動状況に比べて市の活動がやや分かりにくいと感じる。今後の事業展開をふまえ、各々の役割について再度検証しながら、事業に取組める体制の確立が求められる。市の持つ調整機能にさらなる発展性を期待する。
事業の実現性	目的・目標の達成度	20.2点 / 25点	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場への介入という難題をクリアし、継続拡充している点は評価できる。今後は、教師へのノウハウの提供により、より多くの子どもたちの環境意識を高めるきっかけにつなげてほしい。 トラスト協会との連携や財源確保への取組など努力をされているが、特に財源確保については今後も注視する必要がある。
	※事業の発展性 (波及効果)	3.2点 / 10点	/	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちからのメッセージを写真掲載(発信)するなど、市民へのアプローチとして大変効果的であり、波及効果が期待できる。 SDGsとの関連性を強調したPRは企業への働きかけとしても効果的である。また、環境意識が高まることで、他の問題への関心や思いやりの気持ちが育まれることが期待できる。
	※事業の再現性 (スキームの確立)	1.0点 / 10点		<ul style="list-style-type: none"> ノウハウの共有で学校・地域において繰り返し体験ができることにより、定着化し、より環境への意識が根付いていくのではないかと期待している。スキームの確立によって、一過性の結果ではなく、継続的な効果が生まれることを期待したい。
総括		83.0点 / 120点	A	

※項目は、加点項目